



月刊ジオパーク令和6年6月号

第7回 喜界島リーフチェック開催！

喜界島ジオパーク推進協議会 統括専門員 鈴木倫太郎

喜界島ジオパーク(構想)では、喜界島を取り巻く豊かなサンゴ礁を、保全活用すべきジオサイトとして指定する予定です。このジオサイトの一つが荒木集落沖のサンゴ礁です。ここ荒木沖の海には、喜界島の海の主ともいえる直径5mの巨大なハマサンゴが生きています。このハマサンゴ、実は年齢が446歳以上であることがわかっています！戦国時代に生まれたサンゴが、今でも荒木の海に生き続けているのです！このご長寿ハマサンゴの周りには、たくさんのサンゴや魚達が暮らしています。このサンゴ礁の状態を調べるため、毎年喜界島サンゴ礁科学研究所が主催して、リーフチェックを開催しています。今年も、通算7回目となる令和6年年度のリーフチェックを、5月18日に開催しました。

調査の参加者は、調査前日に喜界島サンゴ礁科学研究所でサンゴ礁の生態系と環境を学ぶ講座を受けた後、リーフチェックの調査方法について学び、翌日の調査本番に備えました。調査当日は、天気が荒れる心配があったものの、ヨネモリダイビングサービスさんの判断と安全管理の下、無事に調査を実施しました。調査は、「生きたサンゴなどの海底の状況」「海底に棲むエビや貝などの動物」「サンゴ礁に棲む魚」を調べる3つのグループに分かれて、水深5m～10mの決まった範囲を調べました。初めて調査に臨む参加者もいましたが、一生懸命に海底の生物や泳ぐ魚達をカウントしている様子でした。

調査の結果は、その日のうちに喜界島サンゴ礁科学研究所がまとめ、夜に報告会を開催しました。調査の結果、荒木沖の海域は海底の54%がサンゴに覆われていて、サンゴに関係する魚や動物たちもこれまでの調査と同様の数が確認され、荒木沖の海域が健全な状態であることが確認されました。報告会の後は、島内外の参加者との交流と慰労を兼ねたBBQ懇親会で大いに盛り上がりました。

今回のリーフチェックでは、多くの方々が協力している様子が印象的でした。島内外から調査に参加していただいたボランティアダイバーの皆さん。喜界町役場をはじめ、船を出していただいたヨネモリダイビングサービスさん、参加者の移動のために車を提供していただいた深水レンタカーさん、喜界空港前レンタカーさん、懇親会に焼酎を提供して下さった喜界島酒造(株)さん。これ以外にも島外の企業もこのリーフチェックに協力している状況は、喜界島のサンゴ礁をまもり継ぎたいという多くの方の思いが一つの形になったように思います。海のジオサイトやサンゴ礁の保全には、リーフチェックのような継続的なモニタリングと、多くの方々のご理解とご協力が必要です。喜界島の素晴らしいサンゴ礁の保全にご興味のある皆さま。ぜひ、ビーチクリーンなどの海を守る活動へのご参加をお待ちしております。



喜界島リーフチェック2024にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。(敬称略順不同)
協賛：(株)第一リフォーム 協力：喜界町役場・ヨネモリダイビングサービス・深水レンタカー・
喜界空港前レンタカー・喜界島酒造(株)・BSAC ジャパン・(株)キヌガワ・喜界島ジオパーク推進協議会

